しゅんぺい日記

議員たるもの 体力勝負

before

after

「議員は、よかもんばっか食べとるとだろ？」
昨年末、ある支援者の方から冗談まじりに言われたひと言です。
振り返ると、今年１月の時点で私の体重は過去最高の 93kg。さらに昨年は、熱を出すことも多く、体力の低下を実感していました。一方、私の尊敬する先輩方には、日々の激務に加え、夜の会合や土日も休みなく働いていても、活力に満ちあふれた方が多くおられます。そこで「県民のために全力で働くには、体力をつけなければ」と一念発起し、私は体力強化と減量に本気で取り組むことを決意しました。

結果としては約３か月で体重は 15kg 減、体脂肪率は 32%から 15%台まで下がりました。取り組んだのは大きく２つ。「摂取カロリーの管理」と「筋トレを中心とした運動」です。今回は特にリバウンドを防ぐため、「筋肉を維持しながら体脂肪を落とす」ことを重視しました。現在も食事管理と運動をできる限り継続しており、体重をキープしています。最近では、少し体調が悪そうなときでも熱を出すことがなくなり、選挙での活動や野球をするときにも体の軽さを実感します。議員の仕事はもちろん、今から責任を持って子どもを育てていく上でも、やはり健康が第一です。今後も心置きなく働き続けるために、日々、体づくりの努力を重ねていきます。

南部しゅんぺい活動報告

自由民主党青年局 辻立ち活動

令和７年 濟々黌大同窓会

地元後援会 厄入り お祝いの会

渋滞解消の勉強会を兼ねた県政報告会

各町内での対話集会

一般質問の議会棟にて木村知事と

Profile 南部 隼平 なんぶ しゅんぺい

熊本市東区託麻地区（上南部）出身 1985年（S60）1月20日生 二児の父

《経歴》
平成 9 年 熊本市立託麻北小学校卒業／野球部主将
平成12年 熊本大学附属中学校卒業／野球部主将
平成15年 熊本県立濟々黌高等学校卒業／野球部
平成20年 川崎医療福祉大学理学療法科卒業
平成29年 医療法人社団熊本機能病院退職
平成29年 株式会社 Smart Growth を起業
令和元年 熊本県議会議員 初当選
令和４年 熊本県議会 厚生常任委員会 副委員長
令和５年 熊本県議会議員 ２期目当選
熊本県議会 総務常任委員会 副委員長
自由民主党 熊本県連青年局 青年局長

《地域の所属団体》
・交通安全指導員 ・青少年育成協議会 ・第 26 分団 消防団員
《その他の所属団体》
・熊本県モルック協会 会長
・KPB project 株式会社（火の国サラマンダーズ）社長代理
・農協東部支店青壮年部 顧問 ・託麻商工会青年部
・自民党熊本県連 青年局長
・熊本青年会議所 会員
・黄壁城ライオンズクラブ 会員
・熊本市西倫理法人会 ・熊本市水前寺倫理法人会 会員
・たつだ保育園 理事 ・チヒロ保育園 顧問
・濟々黌同窓会 代表評議委員 ・濟々黌英霊顕彰実行委員
・濟々黌野球部 OB 会 ・濟々黌野球部後援会
・大竹耕太郎後援会 事務局長
・熊本県理学療法士協会 理事
・熊本城稲荷神社 第 35代福男

南部隼平ホームページ▶

南部隼平事務所 Tel 096-295-7972 Fax 096-221-6182
〒861-8010 熊本市東区上南部１丁目2-40 nanbushunpeijimusho@gmail.com

南部しゅんぺい後援会 会員募集 詳しくは南部隼平事務所 096-295-7972 までお問合せください。

参議院選挙を振り返って

先に行われた第 27 回参議院議員通常選挙において、自由民主党と公明党の連立与党は、非改選組を含めて過半数を割り込むという厳しい結果となりました。熊本選挙区では、私が支援していた馬場成志氏が３選を果たしましたが、全国的に見れば、自民党・与党に対する国民の「NO」という強い意思が、昨年の衆議院選挙、都議選、そして今回の参院選と、連続して突きつけられました。

私はこれまで自民党熊本県連の青年局長として、全国の会議に出席し「財源論に終始するのではなく、減税も含め、国民、特に若い現役世代に真正面から寄り添った政策を打ち出すべきだ」と繰り返し訴えてきました。しかし、残念ながら党として明確なビジョンを示すことができず、国民の信頼をつなぎとめるには至りませんでした。

一方、参政党や国民民主党、日本保守党などが議席を伸ばした背景には、現役世代が離れてしまったことと、かつて第二次安倍政権を支持してくださった保守層が、今の自民党に見切りをつけ、離れていった現実があります。このことを、私たちは深刻に受け止めなければなりません。

しかし、混迷する国際情勢の中で、外交と安全保障という国の根幹に真正面から取り組める政党は、やはり自民党しかないと私は信じています。

今こそ、確固たる国家観を持った、真に強いリーダーが必要です。「自民党は責任政党だから」という言葉で思考を停止するのではなく、これまでの失敗、すなわち“失われた 30 年”を生んだ責任と真摯に向き合い、国民の前に立たなくてはなりません。

国民からの信頼を取り戻すため、私たち若い世代が、護るべきものは護り、変えるべきものは勇気をもって変えるという覚悟を持って、その先頭に立ち行動していきます。

全国自民党青年局の緊急申し入れ

自民党熊本県青年局有志の党執行部への申し入れ

オンラインでの全国青年局の緊急会議へ参加

南部しゅんぺい YouTube チャンネル よろしくお願いします。

南部隼平一般質問（抜粋）令和7年6月16日（月）

1．熊本県のスポーツビジョン

（1）今後の大型スポーツ施設整備

南部質問） 熊本県のスポーツ施設の老朽化は深刻で、もはや整備を先送りできる段階にはない。知事は就任後に立ち上げた「公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議」の議論では、委員から県の進め方では構想が間延びするとの意見がある。県は出せる資金の規模感を早期に示し、やる気のある自治体や団体から、より詳細な提案を引き出していく必要があるのではないか。公約の重要施策であり、今こそ、知事自身の意思を明確に示すべきである。そこで、①検討会議での市町村・団体からの提案や有識者の意見への認識、②県として整備の方向性を示す時期、③整備する施設の優先順位の３点について知事に尋ねる。

知事答弁） ①検討会議では、市町村や民間企業から夢のある提案を、有識者から観戦者視点や誘客、にぎわいづくりの意見をいただいた。これにより、目指すべきスポーツ施設の方向性が見えてきた。②検討会議では現在、論点整理が進んでおり、意見の取りまとめを打診したところ。会議の意見などを踏まえできる限り早期に施設整備の方向性を決定したい。③優先順位については、検討会議の議論を注視し、優先順位を判断し、取りかかることができるものから、時間的緊迫性を持って取り組んでまいる。

南部）県として有識者会議に任せるのではなく、できることを伝えて、ボールを離し、やる気のある自治体や団体と見える形でキャッチボールすることで、様々なアイデアが生まれるのではないか。

手法についても PPP や PFI、企業版ふるさと納税など全国各地で様々な事例があり、まずは県としてボールを離してもらうことで前に進むと考える。2026 年度では遅いとので、今年中には、何を優先して取り組むのか、どこまで県としてできるのかを発信するよう要望する。

（2）スポーツチーム及びスポーツコミッションの連携

南部質問） 県内には多様なスポーツチームが活動しているが、知名度や財源面から十分な活動ができていない。熊本青年会議所では、「くまもとスポーツユナイテッド」を立ち上げ、官民連携で持続可能な地域づくりを進めており、徐々にその基盤が整いつつある。一方で、各地域のスポーツコミッション活動には温度差があり、十分な連携が図れていない。県は、他県の事例に学び、リーダーシップを発揮し、県内スポーツチームやスポーツコミッションとの連携をさらに強化すべきと考える。そこで、県内スポーツコミッションの活動状況と連携実績、今後の県とスポーツチームとの連携取組について、観光文化部長に伺う。

観光文化部長答弁） 県では令和４年に「くまもっと旅スポコミッション」を設立し、７つの地域スポーツコミッションとで大会や合宿の誘致等に取り組んでいる。今後はプラットフォーム機能の強化、連携促進、人材育成に取り組む。また、３つのプロスポーツチームと連携協定を結び、観光ＰＲや物産展等を実施している。今後は、スポーツチームの盛り上がりにつながる取組み等のため、熊本県スポーツツーリズム推進戦略を改定し、スポーツを通じた地域活性化を戦略的に推進してまいる。

南部）スポーツチーム及びスポーツコミッションの連携について県の主要なロアッソ、ヴォルターズ、サラマンダーズはもちろん、それ以外のチームにおいても活発に活動しているので、さらなる支援を要望する。

スポーツコミッションについては熊本県スポーツツーリズム推進戦略の改訂に取り掛かられているということで、県がリーダーシップをとって、各地域とスポーツの価値を最大限活かす戦略を描いてほしい。スポーツを取り巻く課題は多くありますが、スポーツの有する価値は無限大であり、県内でも様々な組織が立ち上がり、スポーツでのまちづくりが始まっている。先ほどのスポーツ施設整備と合わせて、県として主体性をもった動きを期待する。

2．車１割削減、渋滞半減、公共交通２倍の実現

（1）都市交通マスタープランの策定

南部質問） 昨年、知事と熊本市長による会談で「自動車１割削減」「公共交通利用２倍」「渋滞半減」を共通目標に掲げ、取組が進められている。都市交通マスタープランは、およそ 20 年後を目標とし、都市構造と交通体系の方向性を示すもので、本年度中に策定予定である。現在、熊本の渋滞状況は深刻で、トムトム・トラフィックインデックスでは、平均速度の遅さ世界第４位、渋滞による年間損失時間世界第５位という不名誉な評価を受けている。要因は自動車の過剰利用にあり、公共交通へのシフトが最大の鍵と考える。そこで、現行マスタープランの検証、新マスタープランでの公共交通２倍実現の具体策を土木部長に尋ねる。

土木部長答弁） 現行マスタープランでは幹線道路網整備やＩＣカード導入等を実施し、一部で所要時間短縮等の成果も見られたが、熊本地震や半導体企業の集積などの事象や、施策未完了の影響で、期待された効果が現れていないものもあり、現在分析・検証中である。新プランでは公共交通への転換やピーク時分散を方針とし、アクションプランで関係機関の役割明確化と進捗管理を行う。バス優先レーン等も推進し、渋滞解消に時間的緊迫性を持って全力で取り組む。

南部）昨年から今年にかけて、この車１割削減、公共交通２倍、渋滞半減のキーワードが県市の共通認識となり、都市圏渋滞対策に関するフェーズが変わってきた。だからこそ、今回のマスタープランにおいてしっかり政策に反映させることが重要。また、熊本市やその周辺都市との連携についても県が主導しながらしっかり取り組みを進めてほしい。

（2）地域公共交通計画の策定

南部質問） 熊本の慢性的な渋滞の解消には、マイカーから公共交通への移行促進が必要であり、県が主体的に公共交通の利便性向上に取り組むべき。今年度策定予定の地域公共交通計画には、渋滞対策の視点を明確に反映する必要がある。知事と熊本市長による会談で「公共交通利用２倍」の目標が共通認識されたが、具体策は打ち出されず、いまだ、交通事業者任せの状況にある。そこで、現行計画の目標達成状況の検証結果と今回計画の方向性について企画振興部長に尋ねる。

企画振興部長答弁） 現行計画の目標に対する検証は、９つの数値目標を毎年のモニタリングにより行っている。夏頃までに現行計画の総括評価を行い、次期計画の策定につなげる。次期計画の策定に当たり、中山間部と都市部の実情を踏まえ、それぞれの地域で目指すべき地域公共交通の将来像やサービス水準を明確にし、実現に必要な取組みの方向性について、市町村や交通事業者等と精力的に議論し、計画を取りまとめてまいる。県としては、地域公共交通が真に県民の生活に不可欠な存在となるよう、次期計画の策定にしっかり取り組んでまいる。

南部）国内では富山のライトレールや宇都宮の LRT、バスにおいては栃木県小山市のおーばすなど行政が直接投資を行うことで、便数やサービスが向上し大きな費用対効果が出ている。海外、特にヨーロッパでは交通連合という組織を作り、そこに国や自治体が財源を投資し、権限を民間に委任することで公共交通の充実につながっている。県が道路に加えて交通へもしっかり投資する姿勢を明確にし、渋滞ワーストの熊本から新しい世界的なモデルを作るという強い意気込みを持って計画の策定をお願いする。

3．台湾・アジアとのスポーツ及び文化の交流

南部質問） ＴＳＭＣ進出を契機に、熊本と台湾のスポーツ・文化交流が活発化。熊本ヴォルターズによる台湾プロチームとの親善試合、台熊祭々や台湾フィルの公演など、質の高い交流が実現している。さらに、韓国・中国・タイ等アジア諸国との交流が進んでいる。地理的優位性を活かし、経済・観光・スポーツ・文化の各分野で関係を深めていくことが重要である。そこで、台湾・アジア地域との交流内容、今後の連携と交流促進の取組方策について観光文化部長に尋ねる。

観光文化部長答弁） 本県では、多文化共生や経済活性化に向け、アジアとのスポーツ・文化交流に積極的に取り組んでいる。スポーツ面では、熊本マスターズジャパンやツール・ド・九州等に多くの海外選手が参加するなどし、文化面では「シアターアジア事業」が始動し、本年５月、県立劇場と台湾・高雄市の文化センターとの間で姉妹劇場協定を締結。今後、オーケストラや伝統芸能等を通じて相互理解を深めていく。また、地理的優位性やＴＳＭＣ進出効果を生かしてアジアに広く発信し、誘客や交流拡大につなげてまいる。

南部）スポーツにおいては各スポーツチームだけにとどまらず、バトミントンやツールド九州など、国際スポーツ大会のレガシーを継承する取り組みが進んでいる。文化芸術面においてもシアターアジア事業を掲げて、高雄市と姉妹劇場締結に関する協定を締結するなど具体的な動きが進んでいることは大変評価できる。熊本が将来にわたって持続的発展をしていくためには、アジアとの関係強化は大変重要。様々な面でのアジアとの積極的な関わりを引き続きしっかり取り組んでいただけるよう要望する。

4．中小企業向け支援制度について

南部質問） ＴＳＭＣの進出により熊本経済は大きく動き始めているが、建設・製造業など地域を支える中小企業には、人手不足や資材高騰の影響で好循環の波が届いていない。さらに、米国関税等による国際経済の不透明さが設備投資や雇用維持を妨げる懸念となっている。中小企業支援の補助制度がある中で、事業未完了などにより返還請求が発生した場合の回収困難も課題である。そこで、補助金返還請求で回収困難な例、中小企業支援の今後の展開について、商工労働部長に尋ねる。

商工労働部長答弁） 令和５～６年度実施の県独自の上乗せ補助では返還事例が生じたが、いずれも適切に返還され、回収困難な例はない。中小企業支援については、上乗せ補助の予算増額や補助金返還が発生しないよう運用見直しを実施。また、専門家派遣や伴走支援も継続し、金融面では新たな資金制度創設や関税対策枠の運用を開始。創業者向けに経営者保証不要の融資も導入し、今後も関係機関と連携し、経営・金融両面から中小企業者の成長を後押ししてまいる。

南部）資金繰り支援については、アメリカの関税対策枠をいち早くスタートしたとのことでスピード感のある支援をいただいている。スタートアップへの支援も準備しているとのことで、今後の熊本の発展の鍵は、いかに「熊本発」の新たな産業を創出できるかにかかっている。既存企業にとどまらず、新しい産業に対する支援も強く要望する。

直近では中東での争いが激化し、国際情勢はさらに先行きが見えない状況となっているため、引き続き情報収集と中小企業に寄り添った支援をお願いする。

5．戦後８０年を迎えての県の歴史教育の在り方

南部質問） 本年８月、戦後 80 年の節目を迎える中、５月には健軍神社に義烈空挺隊の顕彰碑が建立され、また台湾で語学教育に尽力した宇城市松橋町出身の平井数馬の功績が注目されている。しかし、これら熊本ゆかりの出来事や人物の認知度は高くなく、熊本に深く関わる出来事や人物に、教育の中で触れる機会をつくる必要がある。そこで、熊本ゆかりの近代史の教育内容、義烈空挺隊の尊い犠牲や平井数馬のような先人の功績をいかに伝えていくのか、教育長に伺う。

教育長答弁） 熊本ゆかりの人物や出来事については、学習指導要領に基づき、発達段階に応じて各校種で学習等している。小学校では、社会科で先人の働きを学ぶ活動を実施。中学校では、熊本にゆかりある歴史上の人物が社会や文化に貢献した事例を紹介。高等学校では、地域の文化遺産や人物等に関する調査研究を行っている。また、小中学校の道徳科では、県教委作成の郷土資料「熊本の心」も活用している。県教育委員会では、引き続き熊本ゆかりの人物や出来事の更なる情報収集に努め、調査・研究を深めてまいる。

南部）全国の自治体においても、例えば岡山県では「道徳教育郷土資料集」を作成し、郷土の偉人や伝統文化を教材化し教職員に一人一冊配布し、教材・指導案・ワークシートといった構成で、道徳教育と地域理解の統合を図っていたり、愛媛県の松山市では『坂の上の雲』に関するフィールド・ウォークを実施したりと、郷土に関わる歴史を様々な形で学ぶ取り組みが行われている。全国の事例を参考に、子どもたちへ熊本の歴史に触れる機会をより多く創出していただきたい。

熊本県議会の録画映像をご覧いただけます
私の質問の模様はこちらから➡

Pickup　どうなる？熊本スポーツ施設整備の最新情報

これまで熊本県では、計４回にわたり「公民連携によるスポーツ施設整備に関する検討会議」が開催されてきました。

第２回会議では、アリーナ構想として八代市や熊本ヴォルターズ、新野球場構想として菊陽町からのプレゼンテーションとヒアリングが行われました。

続く第３回会議では、プロ利用と一般利用の両立、公民・自治体の連携の必要性が共有され、委員からはアリーナや野球場の早期整備を求める声が相次ぎました。今後の優先順位や財政手法についても、より具体的な検討を進める方針が示されました。

さらに、議会からも「早期の整備方針決定を求める」声が強まる中、７月 18 日の第４回会議においては、県から「熊本県立総合体育館の現地建て替え」を最優先とする方向性案が示され、藤崎台球場については「移転再整備が適当」との共通認識が得られました。今後はこの方向性をもとに、2025 年９月頃までに正式な提言が取りまとめられる見通しです。

私自身も、議員として県や関係自治体、議会、スポーツチームへのヒアリングを重ねてきたほか、個人としては熊本青年会議所でのスポーツフォーラムの開催、「くまもとスポーツユナイテッド」の運営などを通じて、「スポーツの民からの盛り上がり」に取り組んできました。

県外では、長崎をはじめとする多くの事例において、大企業が主導する整備が主流となっていますが、熊本においては、地域の実情を踏まえ、まずは県が明確な方向性を示す必要があると考えています。その上で、できる限り民間の力を呼び込み、単なる施設整備にとどまらず、周辺のにぎわいやまちづくり、交通利便性の向上と一体となった、行政と民間の協働による取り組みが重要です。

今後も、「内側」からの政策的働きかけと、「外側」からの市民レベルの機運醸成の双方から、スポーツによる地域の盛り上がりを実現すべく、全力で取り組んでまいります。

熊本県が提案したスポーツ施設の優先順位の方向性

（第４回会議資料から抜粋）

観点 ＼ 施設	藤崎台県営野球場【移転再整備】	熊本武道館【改修】	県立総合体育館【現地再整備】	陸上競技場【現状維持】
①施設再生の必要性	◎	◎	◎	△
②民間投資等の可能性	○※	△	◎※	－
③施設再生の効果	◎	△	◎	－
優先順位	2	3	1	4

※ 藤崎台県営野球場と県立総合体育館の「②民間投資等の可能性」については、令和6年度調査結果（民間事業者へのサウンディング調査）に基づき、収益性や民間参入の可能性を勘案すると、県立総合体育館の方が優先順位が高いと考えられる。

熊本青年会議所主催のフォーラムを開催

くまもとスポーツユナイテッドの活動